



まもる  
守

富岡 勝則

皆さんこんにちは。

朝霞の夏を彩る「彩夏祭」が今年もいよいよ近づいてきました。今年の「彩夏祭」は、市民まつりが昭和59年に始まってから30回目、お祭りによさこい鳴子踊りを取り入れてから20回目という節目の年で、鳴子踊りの本場、高知よさこい祭りと札幌 YOSAKOIソーラン祭りの昨年の大賞受賞チームを招待して演舞を披露してもらうなど、より一層皆さんに楽しんでいただけるような企画を考えていますので楽しみにしてくださいね。

ところで、今年に入り風疹にかかる人が、特に首都圏などの都市部を中心に全国で急増しています。国立感染症研究所によると、過去5年間で最多だった昨年1年間と比べても約4倍の1万人を超えています。特に成人の方が多くかかっています。風疹は、風疹にかかった人のせきやくしゃみで風疹ウィルスに感染し、2、3週間の潜伏期間を経て、熱と赤い

発疹が体に出るとともに、首や耳の後ろのリンパ節が腫れる病気です。成人がかかった場合、重症化することはほとんどないようですが、妊娠初期の女性が感染すると、生まれてきた赤ちゃんに、難聴や白内障、心疾患などの「先天性風疹症候群」を発症する恐れがあるということで大変心配しています。

感染の拡大が続いている風疹ですが、風疹ワクチンを接種することが、感染を防ぐ最も効果的な手段だということで、市では、生まれてくる赤ちゃんを守るために、妊娠を予定または希望している19歳から50歳未満の女性と妊娠している女性の19歳以上の配偶者に「風疹単独ワクチン」または「麻しん風疹混合ワクチン」の接種費用の一部3,000円を助成することにしました。すでに妊娠している方は予防接種を受けられませんが、同居している方が受けて風疹をうつさないようにすることが大切です。医療機関で接種費用を全額お支払いいただいた後に、市へ申請していただかなければなりません。接種する医療機関は、市内、市外のどちらでも大丈夫ですので、是非ご活用いただきたいと思います。

風疹の流行のピークは、春から夏にかけてなので、まだまだ注意が必要です。早めにワクチンを接種して、元気な赤ちゃんを安心して出産していただきたいと思っています。

では、また。

## 朝霞市は 男女平等を進めています

### ～ 一歩踏み出す勇氣② ～

このコーナーでは、男女平等を進めるために毎年度テーマを決めて連載しています。今年度のテーマは「一歩踏み出す勇氣」。女性も男性も、新しいことを始めるときには、誰でも最初の一歩を踏み出す勇氣が必要です。そんな一歩を踏み出した人たちの話を男女平等推進事業企画・運営協力員が紹介していきます。今回は、キャリアを生かして復職した方のお話です。

結婚、出産で仕事から離れていた女性が、「仕事をしたい。仕事をするなら持っている資格を生かしたい!」とっていました。しかし、何年も仕事から離れていたため、現在の様子がわかりません。そんな不安を持ちつつも思い切って働き始めたという女性にお話を伺いました。

資格を生かした仕事をするのはもう無理だと思っていたときに、偶然目にした求人広告。不安もありまし

たが、思い切って応募してみたところ、運よく採用され「本当にラッキーだった。」と今でも思うそうです。しかし10年間のブランクは思った以上に大きく、慣れるまでは本当に大変でした。「わかっているはずの仕事がわからない…」初めの頃はそんな心の動揺を隠すのが精一杯。でも、毎日積み重ねた自分の努力に加えて先輩、同僚の支えがあったことで、徐々に問題も解決でき一安心。現在は仕事にも慣れ、さらなるレベルアップのため奮闘しているそうです。

このようなケースは珍しいかもしれませんが、女性が結婚、出産後も以前と変わりなく働き続けられる環境は、どれだけ整えられてきているのでしょうか？この答えを知っているのは、働いている女性自身だと感じています。自分でライフスタイルをデザインできる日まで、働く女性たちを応援していきたいものです。(今回のテーマは、地域活動を始めた若者のお話です)

### ひとの推移

人口	13万2,097人 (+117人)	世帯数	5万9,465世帯
男	6万7,130人 (+63人)		(+50世帯)
女	6万4,967人 (+54人)	平成25年6月1日現在( )内は前月比	

\*このコラムは、「朝霞市男女平等推進事業企画・運営協力員」との協働により掲載しています。

☎/それいゆぷらざ(女性センター)  
☎463-2697